

# マズロー「1943年論文」の留意点について

— 「1948年論文」との比較において —

三島 斉 紀

(神奈川大学 経済学部)

1. はじめに ～ ビジネス書の類に目を通すと、心理学者 A. H. マズロー (Abraham Harold Maslow ; 1908-1970) の名を頻繁に目にする。彼は「自己実現」の概念を提唱した事で広く知られている。彼が当該概念を初出したのは 1943 年の事である。そうした事もあってか、彼の 1943 年論文「のみ」を参照している書き物を目にする事がある。しかしそうしたものを読んでみると、小生は不安を覚える。なぜなら彼自身が吐露しているように、1943 年当時の彼の種々の概念は未完のものだったためである。こうした点を強調するために、本稿ではマズローが「自己実現」概念を初出した僅か 5 年後の論文と比較を行いたい。

2. 未完概念としての「自己実現」(1943 年の 2 論文) ～ マズローは 1934 年、猿の欲求に関する論文を執筆し博士号を得ている。1935 年からはコロンビア大学に雇用され、主に女性の心的安定度や欲求に関する研究に没頭した。同じ頃、同僚である文化人類学者 R. F. ベネディクトの勧めにより、カナダの北方ブラックフット・インディアンの調査も行っている。そこでの当初の目的は、彼が開発した安定度テストがアメリカ人以外の被験者にもどの程度妥当なものかを調べることにあった。しかしその居留地で、彼はアメリカ人とブラックフット族は、其々求めているものが大きく異なるように見えるもののその相違は表層的なものにすぎず、根幹では同じものを欲しているという両者の類似性に気付くようになる。そして、人にある程度共通してみられる特徴に関する研究へとその関心をシフトさせていった。

彼は上記のような調査から気付いた人間に共通してみられる生得的な欲求について、1943 年、“Preface to Motivation Theory” および “A Theory of Human Motivation” の中で記した。

その中において彼は、通常、人には共通して「5 次元の目的」からなる「基本的欲求」が生得的に備わっており、それは、生体の欲する最も喫緊度の高い「生理的欲求」に始まり、その欲求が一定程度充足されると、次に「安全欲求」なる願望が表出してくるとした。同様に、第三欲求である「愛の欲求」が満たされてくると、そののち第四欲求として「承認

の欲求」が、そして第五欲求である「自己実現の欲求」が表出してくるという「優勢度」に基づいた「基本的欲求の階層性」の概念を措定した。その折、マズローはこれらの概念に関する種々の補足も行った。彼はこう述べる。自己実現とは「ますます自分らしくなりたいという願望 (the desire to become more and more what one is ; A Theory 論文 382 頁)」であるとしつつも、「私たちは、この自己実現については…、十分にはわかっていない。これは、研究のための挑戦的な課題として残されている (we do not know much about self-actualization... It remains a challenging problem for research. ; A Theory 論文 383 頁)」と。つまり、自己実現欲求に関する研究は、そもそも 1943 年時点で、未完のものであるものの、しかしながら、自己の能力を発揮するという自己中心的色彩の強い欲求として定義していたことが窺える。

3. 非自己中心的な「自己実現」概念 (1948 年論文) ～ こうした概念を措定した 5 年後、彼は人の欲求に関する更なる研究成果を 1948 年論文 “‘Higher’ and ‘Lower’ Needs” にて公表した。当該論文を整理すると、次のように纏められよう。(a) 1943 年時点とは異なり、「自己実現」の定義に“非利己性”が含意され始める。例えば、自己実現者の事を「最も人類愛に富んでいるのと同時に最も個人的特性を発達させている (simultaneously to love mankind most and to be the most developed idiosyncratically ; 当該論文 436 頁を参照)」と記述しだす。(b) 加えて、より高次の欲求であるほど「自己実現」段階に近づくため、非自己中心性が強まっていくとも記している(ただし、彼はこの点を後程修正することになるのだが)。

4. むすびにかえて ～ 上記より、「自己実現」は単なる利己的な概念ではなく、自他合一的、愛他的なものであることが 1948 年時点で既に確定しており、もって、巷間にて流布している“自己実現とは自己の能力の発揮である”との単純な解釈とは大きく異なる概念であると言えよう。従って、「自己実現」概念初出時の 1943 年論文だけを使ってマズロー理論を解説するのは、危険なことであると言えよう。